

二学年 学年だより

No. 10 【3月号】

令和3年3月3日発行

『妥協なくスタートラインに辿り着いただけで、それは1つの勝利だと思っています』～大迫傑～

2月3日、9時15分、そしてその15分後の9時30分、2年生男女が2回目のセントラルマラソンのスタートラインに立った。号砲とともに、君たちと過ごした2年間の思い返ししながら、1歩1歩前に進む背中に向かって静かに呟いた。「頑張れ」

先日のセントラルマラソンでは創立史上初となる距離及びコース変更を余儀なくされ、男女10キロのセントラルマラソン実施となった。昨年のセントラルマラソンを終えた時点で誰がこのような状況を想像できたろうか。しかし、そんな中でも『セントラルマラソン2021を終えて』には、「保護者、地域の方々、仲間、先生たちへ、感謝の気持ちを伝えたい」「開催そのものが危ぶまれたが、伝統を繋ぐことができ良かった」「10キロへ変更になったことに喜びを感じつつも、やはり21キロ走る達成感とは比べ物にならない。21キロ走りたかった」「セントラルマラソンで鍛えた精神力で受験を乗り越えたい」「たくさんのことを学べた中央高校、入学して本当に良かった」・・・など、多くの前向きな文章を目にすることができた。100%全員が満足いく結果に結び付けるのは難しいだろうが、2回のセントラルマラソンの経験は、2年間で最もインパクトのあるイベントの1つになったことは間違いないだろう。9年目を終えようとする私にとってもそれは同じことであるし、年々セントラルマラソンから得られるもの(1つの勝利)は増しているような気がする。是非、感想文で綴った気持ちを大切にしたい。

体育の授業の際、大迫傑選手の言葉を紹介したのを覚えているだろうか。

現時点で全員に共通していることは、3年生の「スタートライン」に辿り着こうとしているということ。この時点で、「1つの勝利」を掴み取れているだろうか。もし、胸を張って掴み取れたと言えないのであれば、この2年間の取組を是非きちんと省みて欲しい。この後の1年間、それぞれの「スタートライン」に立つ時が来ると思うが、その度にそこに至るまでの自分の取組を省みて欲しい。

そして、全員に共通する高校生活最後の「スタートライン」は1年後の3月1日。終わりであり、始まりの日だ。本当の「勝利」を手にした君たちの、1歩1歩前に進む背中に向かって大きな声で応援したい。「頑張れ！」と。

(209HR担任)



フォロワーシップ

2020年には、グローバル化の進展とともに予測不可能な問題（新型コロナウイルス感染など）が、国内外で次々と発生しました。そこで、今の社会では、全てを間違いなく判断する一人のリーダーだけではなく、優秀なフォロワーシップを持った多くの人が非常に必要とされてきていると思います。具体的には、リーダーの指示を待つのではなく、自ら考え、指示が出る前にリーダーといつでも代わる準備をしておけるような、主体性を持った人です。こうした自主的な判断や行動によりリーダーを支えることのできる人が、今後の社会では大きく成長していけるでしょう。また、新しいことにチャレンジすれば当然失敗もします。「燃えつき」てしまわないように、自分のことはできるだけ自分でやって、後は遠慮せずに周囲に助けを求めるといった態度が、ごく自然に日常生活の中の振る舞い方としてできることも大切です。失敗は明日への糧となります。社会が成長していくためにも、失敗を恐れずに再チャレンジが可能な仕組み作りが検討される時代になると思います。あなたもチャレンジしてみませんか。

(209HR副担任)